

公開授業へのご意見・ご感想に回答をさせていただきました。

NetCommons を使用しての授業は初めてみました。

ページのレイアウトや中身を瞬時に変えて授業を行えるあたりは便利だなあと思うほどです。

今回は対戦ディベートということで、このディベート自体を生徒はどのくらい練習したのか少し気になりました。

対戦ディベートについて、理解する事ができました。生徒も真剣に課題に向き合い、肯定側、否定側の立場で考えていた姿が印象的でした。できたら、生徒への事前指導についての資料があれば、より良かったと思いました。授業に緊張感があり、生徒も置いていかれまいという意識があったように感じました。

生徒さんがそれぞれ自分の考えを持ち、それを文章に表現できる様子を拝見できました。実際にディベートをクラスで行ったことがあります、なかなか上手くいきませんでした。生徒自身が自分の考えを言える、表現できる能力が低く、考える前にあきらめたり、他人に頼ったりとしています。今回の公開授業を参考にしながら再チャレンジしてみたいと思います。

公開授業ご苦労様でした。

ディベートの授業自体が初めての参観でした。生徒は慣れた様子で自分の意見をキーボードで掲示板に反映していたと思います。

掲示板でのディベートの前段階で実際のディベート指導をしたとききましたが、その指導があるから生徒がスムーズに掲示板のディベートに参加していたのだろうと感じました。

授業の進行がよくわからなかった。

事前指導についての質問かと思われまますので回答します。

セルフディベートといって、肯定側・否定側・判定者の3役を一人でやる授業を事前に3時間かけ実施しています。大まか流れを下記に示しておきます。

#### 【1時間目】

まずは、肯定側立論のフォーマットに従って10分間で掲示板へ投稿させます。

次に、その自分のたてたスレッドに対し、10分間で否定側駁論として返信させます。

最後に、本日のベストチョイスということで、生徒が論理的に展開されていると考えるスレッドを選択させ、選択した理由をフォームに入力させます。

#### 【1時間目の評価】「技能・表現」の観点で、

肯定側立論 否定側駁論のセルフディベートが、指導者側のフォーマットに従った形で展開されていれば、B 段階として評価します。

#### 【2時間目】

1時間目の逆になります。否定側立論(10分間) 肯定側駁論(10分間)のセルフディベートを行います。1時間目と同様に、本日のベストチョイスということで、生徒が論理的に展開されていると考えるスレッドを選択させ、選択した理由をフォームに入力させます。

#### 【2時間目の評価】「技能・表現」の観点で、

否定側立論 肯定側駁論のセルフディベートが、指導者側のフォーマットに従った形で展開されていれば、B 段階として評価します。

#### 【3時間目】

判定です。判定するスレッドは指導者が指定します。この時、役立つのが、1・2時間目に生徒から集約した「本日のベストチョイス」です。このベストチョイスで生徒が論理

的であったというスレッドを閲覧させ、判定させます。

【3時間目の評価】「思考・判断」の観点で、  
判定の理由が肯定側の論点、否定側の論点を具体的に読み取り、比較した上で判断をしていけば、B 段階として評価します。

1時間しかみていないので、いいところばかり見えてくるのですが、もし、使いづらい点や NetCommons を使う上でのデメリット等があれば、教えていただけたらと思います。

デメリットは、口頭でのやり取りがない事でしょうね。  
もし、さらにディベート授業を発展させるとしたら、この4時間にわたる電子掲示板を使ったディベートの後に、口頭形式のディベートを入れるといいと思います。

率直に大変楽しかったです。

1 今回のディベートのテーマが身近だったので、内容はちょっぴり難しそうでしたが、生徒も楽しそうに活動していたように思います。やはり、論理的に考えるのは女子の方がやや苦手なようですね。2時間続きだったらもっと充実した内容になったような気がします。

例年は、女子の方が上手です。特に皆さんに見ていただいたクラスの男子は、他のクラスの男子よりもたまたま能力の高い生徒が多くいるので、そのように感じられたのかも知れませんね。

2 生徒が素晴らしい。(同じ1年でも違うなあ。「駁論」が会話の中にあることがスゴイ)

短時間でやるべき事を理解し、自分の考えをまとめて作業できていることに驚きました。素晴らしい生徒達ですね。

とても生徒に指導が行き届いているように感じられました。参考にさせていただきます。ありがとうございました。

生徒が整然とディベート画面に入力している様は、感動に値しました。

ディベートのやり方などについては、生徒達はとてもよく訓練されていたと感じました。

生徒がとても集中していて、スムーズに授業が進んでいました。  
事前指導をしっかりやられているのだと感じました。  
ありがとうございました。  
以前は札幌稲西にいました。  
稲北の加藤先生のうわさはきいておりましたので、一度授業を拝見させていただきたいと思っておりました。念願が叶いうれしいです。ここで勉強したことを生徒へ活かしていきたいです。

生徒は一生懸命だった

生徒がすばらしかったというのが一番の印象です。後ろからジロジロ見られなければも>っといい回答をしてくれたのではないのでしょうか。

有り難うございます。生徒に恵まれています。

僕が授業設計をする上で参考にしている考え方は、「学ぶ意欲の心理学」(PHP 新書)、「学ぶ意欲とスキルを育てる」(小学館)などの著書で知られる東京大学の市川伸一先生の「教えずに考えさせる授業」から「教えて考えさせる授業」へというものです。

僕自身の授業がそのような展開になっているのかどうかは分かりませんが、市川先生の提案を意識しながら授業設計および実践を積んでいるところです。

生徒は、真剣に取り組んでいてよかったと思います。

掲示板を利用したディベートは意見に対してその場で即答しなくてもいい(時間をかけて考えられる)ということでは、個人的に賛成ですが、デュアルタイムで考えて発言していく(面と向かって話し合い)の活動があって利用がするべきなのではないかと思いました。

論点を咀嚼する時間は当然必要かと思います。参加された先生からは、生徒のやり取りを印刷物として生徒に配布し、読むように指示してあげるとよいとご助言も頂きました。今後の授業展開を考える参考にさせていただきます。

昨年同様、生徒がとても立派でした。みんなが見ているという緊張感もあるのかもかもしれませんが、先生の指示に生徒は全員答えようとしていました。普段の指導がいきとどいていないとできないことだと思います。そして、時間の経過とともに、生徒はますます真剣になって画面を見ていました。授業の流れがとてもいいのだと思いました。

内容が豊富で50分の時間では足りないような気がしました。パソコンを利用してディベートをやらせる内容に感動しました。

情報の公開授業でしたが、授業内容の工夫がなされ、非常に参考になりました。今後の授業を展開していく中で、今回の授業のよい点を吸収し、生徒達に還元していきたいと思いました。

お褒めのお言葉、嬉しい限りです。この授業は、

JAPETの実践事例集 Vol.13

[http://www.japet.or.jp/idea/vol13/jirei/13\\_44.pdf](http://www.japet.or.jp/idea/vol13/jirei/13_44.pdf)

啓林館「情報教育」メール第47号

<http://www.shinko-keirin.co.jp/koutou/magazine/47.htm>

啓林館「情報教育」メール第48号

<http://www.shinko-keirin.co.jp/koutou/magazine/48.htm>

に掲載されています。

ご参考までに、なお、以前使っていた教材は、

<http://www.shinko-keirin.co.jp/koutou/magazine/kato/frame.htm>

で閲覧することができます。授業のご参考になれば・・・。

情報端末を使ってディベートを行う授業は始めて見学しましたが、生徒が興味を持ち真剣に取り組んでいたのが印象的でした。パソコンを使わないディベートの授業も見学したかったです。

日文の情報Cには、ディベート学習に係わる情報関係の良質な素材が載っています。これを使って、パソコンを使わないディベートを試みようかなと密かに案を練っているところです。

郡部の小規模校に勤務しているので、他校の情報の授業を見せていただく貴重な機会になりました。生徒がPCをこれだけ操作し、自分たちの意見を表現できるとは驚きです。このあたりの格差も目の当たりにし、改めて考えさせられました。

非常にテンポのよい授業で、時間を効率的に活用し、50分で中身の濃い授業であったと思います。

評価の観点を生徒に示しながら、これまで学習してきたディベートを対戦型として2人1組で、生徒には待ち時間のない、とてもよいものであったと思います。

生徒の文字入力の実熟度もこの効率化が図れる一因ですが、ここまで指導しながら、それは単に手段であり、ともするとスキル指導となる授業がまれにあるわけですが、それとは対極のすばらしい授業でした。ありがとうございました。

### タイピングが速い

入学してくる生徒のPC操作は、年々向上してきていると思います。

一応は、タッチタイプ3時間、コンピュータの基本操作をワードで3時間行います。その後は、自分の進路を考えるという総合実習を行い、最後はパワーポイントのプレゼンテーションを行います。配布させて頂いた資料の表紙で、コンピュータの周りに生徒が集まっている写真がプレゼンテーションを行っているときの様子です。

また、ビルダーによるWebページ作成の実習も行っています。素材は、自分を知ること、生徒の幼少の写真を持ち寄り、デジタル・フォト・アルバムとしてまとめました。

座学（NetCommonsによるレポート作成） 実習 座学・・・とコンピュータやネットワークはあくまでも自己表現するためのツールとしての位置づけで授業を行ってきた成果をこども達が皆さんの前で普段通りの活動で見せてくれたのだと思います。こども達に感謝したいと思います。

消化授業ということでしたが、そのような言葉には違和感を感じます。それぞれの授業に意味がなければ、他の教科からその授業時間をよこせ、と言われてしまいます。(^^;

ごめんなさい。言葉足らずでした。評価し終えた残りの授業をどのように利活用するか？それは生徒にとって、私にとってもです。

今回、お見せした授業は、例年は学年末の成績会議を終えた後に行う授業で、生徒の活動について評価をしたとしても、それが成績に反映されるものではありません。

しかし、今年度については、このディベート学習についても個人評価に取り入れようと思ひ、実験的な取り組みとして、皆さんからの意見を募ることにしました。まだ、僕自身、対戦ディベートの評価を行っていませんので、皆さんから頂いた意見を参考にどうするかその方針を立ててみたいと思います。

今回の授業でも、ディベートをやった事に対する意義を生徒が感じるような場面が必要であるし、ディベートの結果に対してもきちんと生徒にフィードバックする事が重要だと思います。

毎年、最後の授業で生徒とから授業の感想を、それこそNetCommonsを使って集約するのですが、役立つと思われる授業は何でしたか？との問いに「ディベート学習」という意見が多いです。生徒自身は僕の拙い授業であっても、ディベートの意義を十分感じてくれているのだと思います。

確かにディベートはゲームなのかもしれませんが、それは方法としてゲームなのであって、やった活動そのものがゲームになってはいけませんものね。  
今日の授業の前後には、私たちが知らないいろいろな流れがあるのだらうと思います。書きすぎていましたらお詫びします。

今回の「ディベート学習」の終わり方と、発展のさせ方が、僕自身の次の課題となりました。貴重なご意見有り難うございました。

充実した内容をコンパクトにまとめた加藤先生の指導力と日ごろの生徒の学習成果が感じられる授業でした。欲を言えば、生徒が肯定側及び否定側の論旨を十分に斟酌して評価・判断するには、やや時間が不足気味だったことと、電子会議室を活用してディベートを行った事のメリットを生徒に理解させる時間が足りなかったかなと思います。(事後指導の充実で十分対応できますが。)

本来であれば、対戦ディベートの前に1時間かけ、判定の仕方についての授業を行うのですが、今回は公開授業に合わせるため、15分程度しか実施していません。そのため、判断する手法が生徒に徹底できていなかったといえます。

「ディベート学習」を行う前の別単元「電子コミュニケーションの特徴」というところで「電子メール」・「チャット」・「電子掲示板」を実際に体験してもらい、様々なケースにおいて、どの「コミュニケーション・ツール」を選択するのが相応しいのかを判断させる授業を行っています。その後の単元が「電子掲示板を使ったディベート」というわけです。

生徒は難しい授業に対して熱心に取り組んでいる様子で、感動しました。やはり教育は聞く姿勢からはじめなければならない。授業では生徒は命題がわかっていたのかもしれませんが、命題を公表する前に肯定か否定に分けるのは難しいのかなと思いました。すでに授業では説明がされているのかもしれませんが、ネットでの掲示板では様々な問題(裏掲示板など・・・)が惹起しています。そのような問題にもふれるといいのかなと思いました。

学校裏サイト、プロフなどに関しては、単元「電子コミュニケーションの特徴」のところで少し触れています。それと、この後の「情報化の光と影」で例年詳しく話しをしているところです。

今日のような単元もあるのだと感動しました。ただ、本校では教室と同じ並び方なので、対戦という雰囲気にはなりません。生徒の把握という意味でも縦型の方がよいと思いました。

昨年、千葉県の普通科寄りの情報科を開設した柏西(現 柏の葉)高校  
また千葉県下有数の進学校であり、情報科で有名な大橋教諭が勤めている  
東葛飾高校を視察してきましたが、机の配置は本校と同じです。

また、  
今年、情報教育で有名な富山県の大門高校  
および千葉県下有数の進学校校であり、情報科でこちらも有名な江守教諭  
が勤めている砺波高校を視察してきましたが、これらの学校も配置は本校  
と同じです。

また、ちょっと気になったのは、今日の単元内容だと他のクラスでは1時間で終わるのだろうか?という疑問も持ちました。

この授業を始めて5年になりますが、ちゃんと1時間で終わっていますよ。

教材の作成が非常に大変そうな気がします。

以前は PHP で自作のスク립トを組み実施していましたが、NetCommons を使うと簡単にできますよ。

## ワークショップ1「観点別評価の体験」についてのご意見・ご感想

user15

ケース1からケース3までの意味を理解するのに少し苦しみました。

「客観的に」ということで、その「位置づけ・定義」がやはりひとによって違うこと、また、どういった面から読み取るか、捉え方次第では客観的にも主観的にもなる、など「そういった見方もあるのか」と勉強させていただきました。

user27

やはり評価は難しいですね。「どの観点・どのような視点から評価を項立てするか」で評価の価値・数値などが大きく変化することがよくわかりました。

user4

観点別評価のモデルに合わない項目が2箇所あり、自分の評価が正しくないのかと一瞬不安になりました。しかし、項目を整理し、細かく見ていくことで評価の数値化が可能になる事が改めて確認できました。

user19

評価の項目について、評価基準がやっぱり必要とおもいました。抽象的なことを客観的に評価する事はやっぱり難しいと思いました。

user12

もう少し時間があれば、よかったと思います。授業自体は、考えることが必要であると思っているので、大変満足しているのですが、それに対して評価を考えるというところまでいかなかったのが、少し残念でした。

user26

コンピュータ上で入力された情報を元にして評価を行う際の問題点が明らかにされたことは非常に有意義であったと思います。一口に「客観的評価」といっても、評価の観点をかなり厳密に決めておかなければ、教師によってかなり評価がバラついてしまい、主観的判断に陥る危険性があることがよくわかりました。

user29

貴重な経験をさせていただきました。実験的な取り組みであったのだらうと思います。観点別評価をどのようにしていくのかは難しい課題ですが、教員側が何を意図して実習を取り組ませているのかが生徒に伝わり、かつ、評価をしやすい材料を準備することがとても重要な気がしました。携帯電話などの生徒の主観が入り込みやすい内容を取り扱うときには、とくに気を使う必要があると感じました。

user6

討論の時間が不足して、深まりきらずに消化不良の気分です。

「客観的」という言葉に対しても、提示者が評価基準に組み込む前にもっと吟味が必要であったと思います。もっともその議論そのものがワークショップのテーマであったと言われればそうかもしれませんが、あまりにも具体性に欠けて、議論そのものが進み得ないものだったのではないのでしょうか。

私自身としては、ワークショップ中のコメント欄にもメモしましたが、少しばかり考えが深まる時間ではありました。

user3

Netcommons を活用して、短時間でデータを集約して評価することの有用性は感じられました。できれば、授業で生徒に記入させる際に、あらかじめ「立論側の論点をとらえている」、「駁論側の論点を捕らえている」、「自分の意見がある」の3つの観点を示した上で、取り組ませた方がよいと思います。

user16

評価はどの教科も共通だが、常に悩むところです。これが単純な発想になってはいけないと思います。われわれも常に評価されねばならないと思います。

user18

意図がわからないと難しい方法だと感じました。生徒側に立った場合でも、何を基準に勝ち負けを決めるのか。これはある意味、裁判官制度への準備だろうか、と、評価の体験で感じました。

user1

グループ内での協議も進んだのですが、時間が無くまとめ切れなかったのが残念でした。時間がもう少しあれば、グループで共有化された内容もより充実したものとなったと思います。グループ1の皆さん、ありがとうございました。

user21

「ケース1」等の言葉の意味や、作業の流れが把握しづらかった。評価の観点（ループリック作成の意図）等を口頭で再確認したうえで評価作業を行ったとしたら、評価のバラツキは少なくなっていたように思います。

user20

客観的に考えることは難しいことだと思いました。

user2

画面を切り替えていくうちにデータ構造が明らかになりました。さらに改善して、ぜひ授業で実践していただければと思います。

user25

私の勉強不足で大変申し訳ありませんが、どのように評価するのか、客観的な評価の材料を発見できず、いい評価をすることができませんでした。

user28

生徒の「興味・関心」や「授業に参加する態度、姿勢」の評価は難しいと思いますが、今回の方法は具体的な方法の一つであると思います。客観的であるか、否かという唯一つの観点でさえ意見が分かれるので本当に信頼に足る数値化というのは難しいと思いました。毎回、生徒一人一人の文章を指導者が全部閲覧して評価を数値化するのは時間的にも教師自身の意欲からいっても無理だと思っているので、実際に授業の中で行っている数値化の手法なども紹介していただければとても参考になると感じました。



user9

NetCommons を使った評価とは刺激的でした。  
工夫次第でかなり可能性が広がるものだと思います。  
ありがとうございました。自分も挑戦してみたいです。

user30

客観的ということばをどう解釈するかがわかりにくかった。元ネタがあった方がわかりやすかった。

user24

体験を通して、観点別評価について改めて考えなくてはならない点が自分の中でありました。また、グループ討議による、みなさんの考え方などを聞くことが出来て、非常に充実した時間になりました。

user14

評価する仕組みが理解しきれなかった。  
単純に、評価のマトリックスを作成して評価する方が良いし、評価する側と評価される側が、共通認識しているループリックを基に授業を展開すべきだと考えます。

user5

与えられたデータだけでは、評価基準に基づく評価ができなかった。

user11

あまり理解できませんでした。(司会としてお役に立てませんでした)

user8

コチラが答えを出すのに情報が不足している

user17

みなさんの意見から具体の評価規準をしっかりとつくらなければ、評価が出来ないという声が多く聞かれていました。このワークショップの意義は大きかったと思います。

今回、はじめて行った内容のワークショップであり、準備不足でした。そのため、皆様にご迷惑をおかけしました。本来であれば、事前に集約した生徒のコメントで、僕が実際に評価したあとのものを皆様に提供すればよかったと反省しています。そうすれば、ループリックから導いた評価の具体を皆様に示すことができ、ワークショップの方向性ももう少し定まった形で進行できたのだと思います。

もし、再度このようなワークショップを行う機会があれば、もう少し上手に運営できるかもしれませんので、その際には、ぜひまたご参加下さい。

## ワークショップ 2 「NetCommons による教材作成」についてのご意見・ご感想

大変面白いと思いました。早速学校に戻ったらやってみます。LINUX サーバを立てたらよいのですよね???

実験的に行うであれば Windows サーバに Xampp をインストールした後、NetCommons をインストールするだけで、すぐにイントラネットであれば運用できますよ。

powerpoint で作成した教材の流し方が理解できました。機能については次回の NC 2.0 に期待しています。

NC2.0 は、操作系がさらに向上してこの夏、登場する予定だそうです。

自分も X00PS で同じような講座をしたことがあるのですが、バツグンに NetCommons の方が楽に作成できますね。加藤先生が薦めるわけがわかりました。

ぼくも、当初、X00PS もしくは Moodle でこのような授業を行おうと考えていました。しかし、NetCommons と出会って、これしかない!と思ったわけです。今だ、マイナーな CMS ですが、いずれは教育関係だけでなく、様々な団体が使うようになるような気がしています。

NetCommons はとても利用価値の高いものだということが改めてわかりました。ぜひ使ってみてみたいと思います。使い方は生徒の実態など、各学校様々だとおもいますので、個人的には実際のインストール、注意事項等をやっていただければ、もっとよかったと思いました。どうもありがとうございました。

便利そうだなと思いました。ただ、導入の方法や、必要なものは何なのか、ご助言をいただければと思いました

パソコンを活用して教材をどのように工夫するかということは、非常に頭の痛い問題です。情報の授業の工夫に大きな時間と労力をかけることは難しいと感じている状況ですので、簡単に利用できるシステムの存在はとても大きいと思います。学校に戻り、改めてトライしてみようと思います。

よく choice のメーリングリストに出てきていて、なんだか偉く敷居が高そうに見えて、「とても私には手が届かないわー」と思っていました。食わず嫌いだった様です。想像以上に使いやすく、これなら生徒も難なく使えそうな気が少しします。PC 室を使うのが自分だけではないので、他(農業科)の先生たちとの折り合いになりますが、導入を検討する余地があると思いました。

昨年度、情セン研修講座の講師として、インストールの方法についての講習を行いました。また、今年度は、高教研情報部会キャラバン研究会 IN 倶知安でインストールのワークショップを行っています。もし、ご希望があれば、研修会・ワークショップを実施することが可能ですので、お声を掛けてください。

NetCommons の操作じたいは概略として理解できました。他の CMS と比べて学校現場での優位性などの紹介もあれば良かったと思いましたが、小テストやアンケート機能などがそれに当てはまるということでしょうか。

たぶん普及の戦略として、教育関係をターゲットにしてスタートしているのだと思います。その意味では、XOOPS をベースとしていますが、別物として考えた方がいいでしょう。LMS ( Learning Management System ) として有名な Moodle と比較した場合、大きな違いは 1 枚のページに質の異なる複数のモジュールを配置することができるという点です。感覚的な物の言い方で伝わるかどうか分かりませんが、Moodle やスクールネットに搭載された i-collabo は、コースマネジメントシステムとしての色合いが強く、NetCommons はコンテンツマネジメントシステムの色合いが強いのだと思います。

このような便利な教材があれば、多方面で使用できると思いました。

学校 Webpage としての利用は、多くの学校で取り入れています。教育センターや教育委員会が率先して導入しているケースもあります。千葉県、静岡県、宮城県などです。北海道の情報処理教育センターも義務教育向けの講座で NetCommons を紹介しているという話も聞きました。

アンケート、掲示板などを簡単に作ることができることを体験できました。

思ったよりも簡単に教材を作成できるのがよくわかりました。とても便利だと思います。

アンケートとかの集計などがデュアルタイムでできることは、すごくいいと思いました。

以前は、PHP で自作のスクリプトを作成して、授業を行っていました。しかし、NetCommons を使えば、授業に必要なモジュールをすぐに配置することができます。その分、教材づくりの手間が軽減できました。

短時間では難しかったと思いますが、今回の授業 Web をどのように作成したのかと、評価、小テスト、アンケートの集計方法までも具体的に示した方が、参加者にとっての理解が深まり、NC の拡がりにつながって行く様に思えました。

NetCommons の可能性を感じさせる内容でした。最後に SQL でデータを抜いて、表計算などで集約して簡単に評価ができるところも紹介していただければなお良かったと思います。

ぼくの場合、phpMyadmin で NetCommons のデータベースから必要なデータを Excel 形式にエクスポートして、利用しています。次期モジュールでは、モジュールから直接、CSV 形式でデータを抜き出す機能を実装する予定だそうです。さらに、敷居の低い CMS になりそうですね。

「NetCommons によって、今までに無い、新たな授業展開を!!!」、などと肩に余計な力を入れるのではなく、これまでの授業を振り返り、NetCommons の利用により効率化される場面があるのであればその部分にまず使ってみる、こうした視点が重要かなと思いました。

もちろん、僕も全てを NetCommons では考えていません。紙媒体がいい場合も当然あるわけですから。その頃合いをどの辺りに持ってきて授業をデザインすればいいのか。このことが僕の課題です。

NetCommons の可能性について、実例を示していただきながら、操作と共に学ぶ事が出来ました。教員の発想と運用によって、学習教具として共に校務支援のツールとして利用できるとわかりました。

校務支援ツールとして利用している学校も他県では多数あります。ぜひ、北海道でもそのような実践例が出てくると嬉しいですね。

研究会の会員間での情報共有の場としても利用できると考えています。アクセスコントロールも結構強力だし、SNSのプラットフォームとしてもNPOなどが利用しています。以前、理科センターと共同研究の形で導入をしようとしたのですが、自分が忙しくなってしまう頓挫の状態です。

NetCommonsの使い方については、いただいたパンフレットに書いてあったように「Post It」感覚で使えるあたりが非常に便利で、初心者でもすぐ使いこなせるし、これを用いて教材を作成するにしても、負担はあまりないのでは！と思いました。

そうですね。サーバを立てインストールするまでは、それなりの知識が必要となりますが、運用面は、ワープロ、メーラの操作ができる程度のスキルでOKです。

目的や条件を仮定しておいて、それに合わせた教材を作成するワークショップなどはどうでしょうか？

様々なソフトを使い、授業を展開していく事で、情報化社会といわれる現在、生徒のために、教師自ら学ぶ気持ちを忘れてはならないと思いました。

基本的な操作は、次第になれてくると思うので、もう少し応用的な使い方を知りたかった。ユーザ管理を今日はいろいろな部分で行って実施していたので、その部分の説明を機会があればしていただければうれしいです。小テストは、解答に解説などを入れることができないのでしょうか？X o o p sと違ってあまり追加モジュールとかはできないのでしょうか？

大変勉強になりました。情報に携わる教員は正に常に情報に敏感でいなければならず、新しいことを勉強していかなければならないと思いました。

何をするのかという、明確なゴールを示してほしかった。機能だけを知るのなら、マニュアルを少し真剣に読めば分かると思います。ワークショップであるのなら、何かを製作して、やり遂げたという充実感を味わいたかったです。(欲張りですね(^^;))

モジュールの作りかたを紹介するよりも、実際にどのようなことが出来るかの紹介をして、グループで話し合いながら作らせたほうが良かったのではないかと

NetCommonsについてのワークショップを始めて、1年が経ちました。皆様のご意見・ご感想を頂き、現在行ってきたものを改善するのはもちろん、新たなパターンのワークショップもできるのだと思いました。稲北研究会は今年で終了しますが、もし、ご希望があれば、研修会・ワークショップを実施することが可能ですので、お声を掛けてください。